

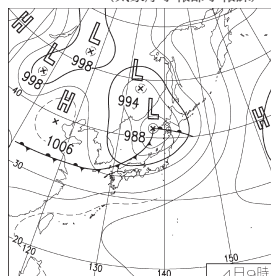
# 日々の天気図

— No. 114

## 2011年7月

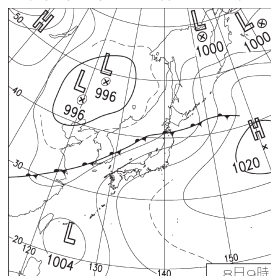
- ・8日～11日、九州北部～東北にかけて梅雨明けを発表。
- ・18日～20日、台風第6号の影響で、東・西日本太平洋側を中心に大雨。
- ・28日～30日、前線の影響により、新潟県と福島県を中心に記録的な大雨。

(気象庁予報部予報課)



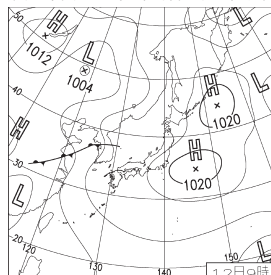
4日(月)九州や北海道で大雨

低気圧と前線の影響で九州から北海道にかけて日本海側中心に雨となり100 mm/日を超えた所も、熊本県では60 mm/1h以上の非常に激しい雨。関東を中心に猛暑日22地点。



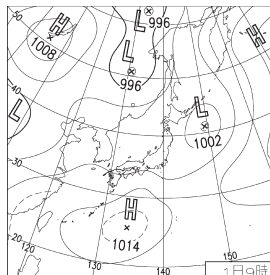
8日(金)梅雨前線北上

東北北部や北海道は前線の影響で雨。その他の地域は日中概ね晴れて、最高気温は近畿を中心に前日から5～10°C上昇、日本海側では猛暑日、四国・中国・近畿・東海梅雨明け発表。



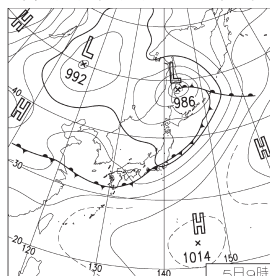
12日(火)台風第6号発生

東～北日本は朝の最低気温、最高気温ともに8月上旬並、全国的に大気の状態が不安定で午後は各地で雷雨、大分県、岩手県では非常に激しい雨、大分県佐伯市蒲江で65.5 mm/1h。



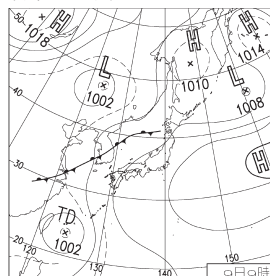
1日(金)各地で激しい雨

梅雨前線の活動が弱まり、東北日本海側は朝まで雨。気圧の谷の影響で西日本は午前中雨。午後からは気温が上昇し東日本を中心に雷雨。鹿児島県西之表市西之表で54 mm/1h。



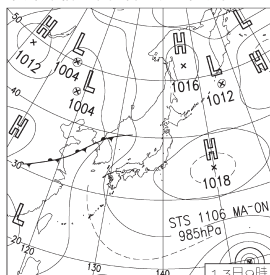
5日(火)梅雨前線南下

本州付近の梅雨前線は南下し、西～東日本は朝から晴れて気温上昇。関東は不安定となり午後雷雨。水戸でひょう。梅雨前線が停滞した九州南部で雨や雷。



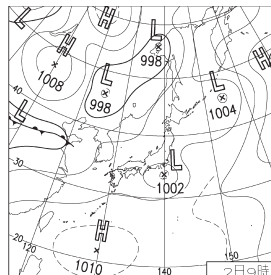
9日(土)関東甲信など梅雨明け

太平洋高気圧の勢力さらに強まり全国的に晴れて、全都道府県で真夏日。午後は雷発生し新潟県で50 mm/1h以上の非常に激しい雨。九州北部・関東甲信・北陸梅雨明け発表。



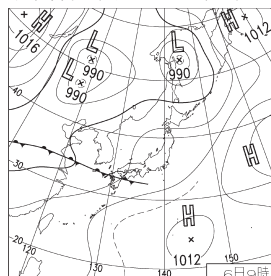
13日(水)高温注意情報 発表開始

九州や北陸～東北では午後の雨や雷雨で猛暑も幾分和らぐが、その他の地域は広く晴れて連日の猛暑。熱中症への注意を呼びかける「高温注意情報」の発表を開始。



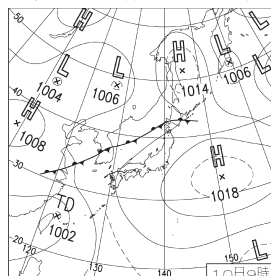
2日(土)梅雨の晴れ間

南西諸島～西日本は曇りや晴れて、一部でわか雨。東～北日本では、雲は多いものの概ね晴れ。午後、東日本で大気の状態が不安定となり、岐阜県高山市船山で54 mm/1h。



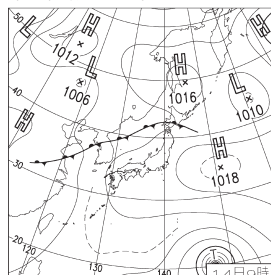
6日(水)九州で記録的な大雨

九州では梅雨前線が停滞し、活動が活発化。鹿児島県、熊本県を中心に記録的な大雨となり、3時間降水量120 mmを超える所も、鹿児島県さつま町紫尾山では日降水量422.5 mm。



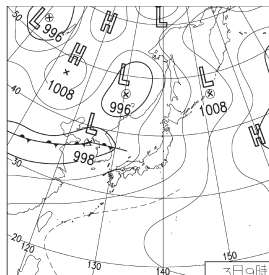
10日(日)余震による津波を観測

今日も全都道府県で真夏日。猛暑日は26道府県。午後は山沿いで局地的な雷雨。熱帯低気圧の影響を受けた沖縄や、梅雨前線の影響を受けた東北・北海道でも雨。



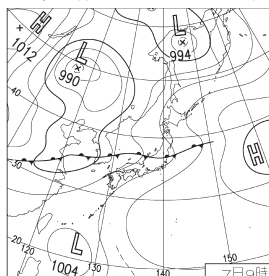
14日(木)北海道で大雨

北海道では前線の影響で大雨となり石狩市浜益では観測史上1位の45.5 mm/1hと117.5 mm/日。他の地方は太平洋高気圧に覆われ概ね晴れて福島県など8道府県で猛暑日。



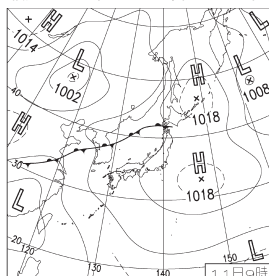
3日(日)あちこちで局地的な雨

日本海から前線が接近、日本付近は湿った空気が流入。西日本や東北は雲が多く山沿いで局地的に強い雨。晴れた東日本中心に広く真夏日となるが、猛暑日となった地点はゼロ。



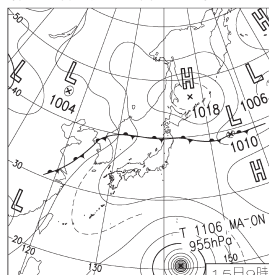
7日(木)「天の川」は北と南で

晴れたのは北日本と南西諸島。その他は雨や曇り。西日本で非常に激しい雨も、長崎県平戸で66 mm/1h。晴れた北と南で気温が上がり、北海道網走では平年比11.5°C高い31.0°C。



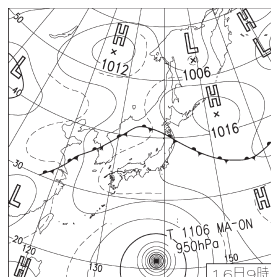
11日(月)夏本番

本州付近は高気圧に覆われ前線の活動も弱まりながら北上し、残っていた東北でも平年よりかなり早い梅雨明けを発表。梅雨のない北海道は前線の影響を受けて曇りや雨。



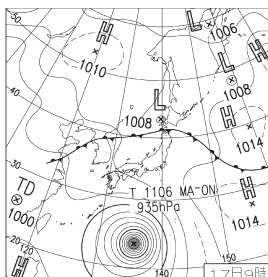
15日(金)台風第7号発生

前線の影響を受けて雨となった青森と北海道を除き、太平洋高気圧に覆われ45道府県で真夏日、近畿～東北の20道府県で猛暑日。関東は午後大気が不安定となり局地的に雷雨。



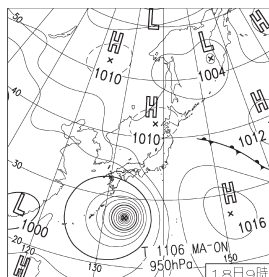
### 16日(土)台風第7号 熱帯化

東北地方に前線が停滞、北海道で雨。関東北部の一部で雷雨、他は太平洋高気圧に覆われ晴れて、25都府県で猛暑日。台風第7号は1日もたず、03時に熱帯低気圧に変わった。



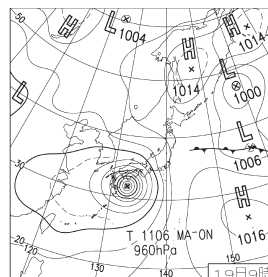
### 17日(日)南大東島、暴風域に

北海道は前線の影響で雨や曇り。その他は概ね晴れたが、西日本の太平洋側と南西諸島では南海上から北上する対流雲でわか雨。台風第6号は超大型で非常に強い勢力を維持。



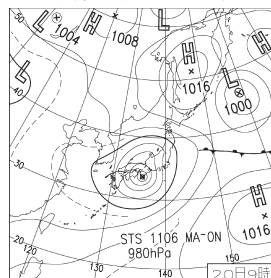
### 18日(月)西日本太平洋側で大雨

台風第6号の接近により外側の雨雲がかなり始め、九州・四国・紀伊半島などでは夜にかけ、南東斜面中心に激しい雨が続く。高知県・奈良県で日降水量が300mmを超える。



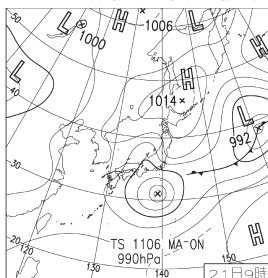
### 19日(火)四国で記録的な大雨

台風第6号が四国に上陸。高知県馬路村魚梁瀬で日降水量851.5mmと全国の歴代1位を更新するなど四国～関東で大雨。北陸と東北日本海側ではフェーン現象で気温上昇。



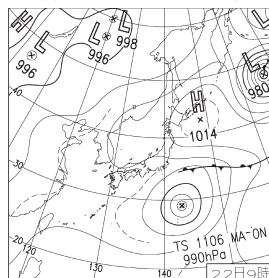
### 20日(水)台風潮岬付近通過

四国に上陸した台風第6号は東進し和歌山県潮岬付近を通過。北陸はフェーン現象により気温が上昇し、猛暑日全国20地点中15地点が新潟県、4地点が石川県。東海は激しい雨。



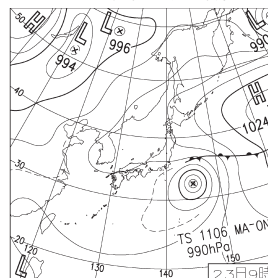
### 21日(木)台風第6号南東進

台風は伊豆諸島の南を南東進。東日本太平洋側では大しけ続く。関東、東北の太平洋側は台風吹き込む北東風で最高気温が概ね20～25℃。猛暑日は新潟県と宮崎県で各1ヶ所。



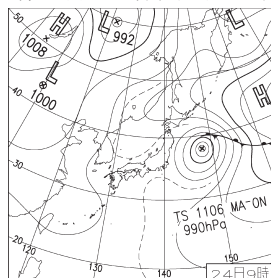
### 22日(金)関東は涼しい朝

四国、近畿、北陸及び東北南部では曇り、一部で雨。その他は概ね晴れ。朝の最低気温は関東以北では連日平年より低く、東京は5.7℃低い18.0℃。猛暑日の地点なしは、7日以来。



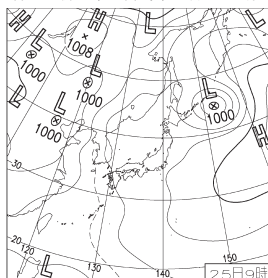
### 23日(土)過ごしやすい「大暑」

引き続き関東～東北の太平洋側は北東風により沿岸部で雲が広がる。その他は概ね晴れ。最高気温は本州で前日より2～7℃前後上昇し、東海以西で真夏日となるが猛暑日はなし。



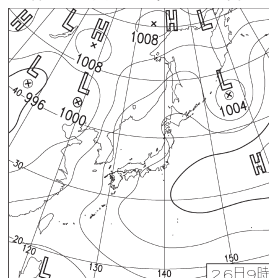
### 24日(日)台風第6号温帯化

上空に寒気が流れ込み、午後は山沿いを中心に対流雲発達し広島県庄原市道後山で64mm/1hなど、九州～近畿で激しい雨。台風第6号は日本の東海上で温帯低気圧となる。



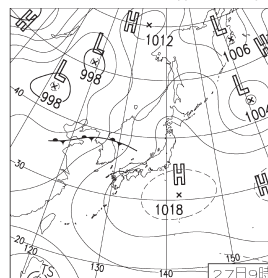
### 25日(月)各地で短時間強雨

湿った空気の流入に寒気も加わって広範囲で大気が不安定となり各地で短時間強雨や雷。新潟県で記録的短時間大雨情報発表。山口県国門市玖珂で60mm/1h。



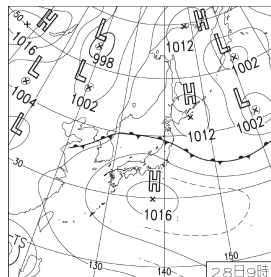
### 26日(火)上空寒気で不安定

上空に寒気があるところに暖かく湿った空気が流れ込み本州付近は曇りや雨。内陸部で対流雲発達。栃木県日光市今市で80mm/1h。台風第8号がフィリピンの東で発生。



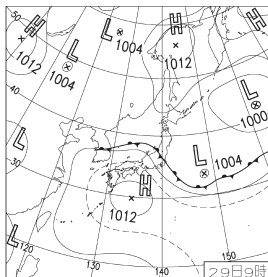
### 27日(水)各地で非常に激しい雨

寒冷渦と暖かく湿った流れの影響で、西～北日本は大気の状態が不安定となり、各地で非常に激しい雨。岐阜県美濃で58.5mm/1h、宮城県登米市米山で53mm/1h。



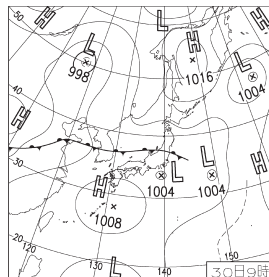
### 28日(木)西は夏空 東は大雨

西日本や北海道は高気圧に覆われて晴れるが、午後は近畿で局地的な雨。東日本～東北は雨の所が多く、前線付近は強い雨が続き、茨城県筑西市門井で97.5mm/1h。台風第9号発生。



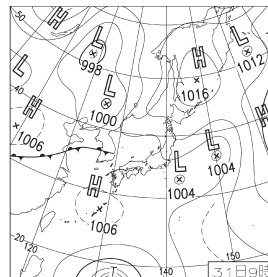
### 29日(金)新潟・福島で豪雨続く

前線が停滞し、新潟県十日町で121mm/1h、新潟県加茂市宮寄上で93.5mm/1h、福島県只見で430mm/日など観測史上1位の記録更新。西日本は高気圧に覆われ猛暑日も。



### 30日(土)新潟・福島豪雨は収束へ

新潟県南魚沼市塩沢で04時28分までの1時間に89.5mmの雨等、新潟県や福島県では今日も観測史上1位の雨の記録を更新。雨は午後には峠を越えて収束へ。



### 31日(日)雨の主体は西進

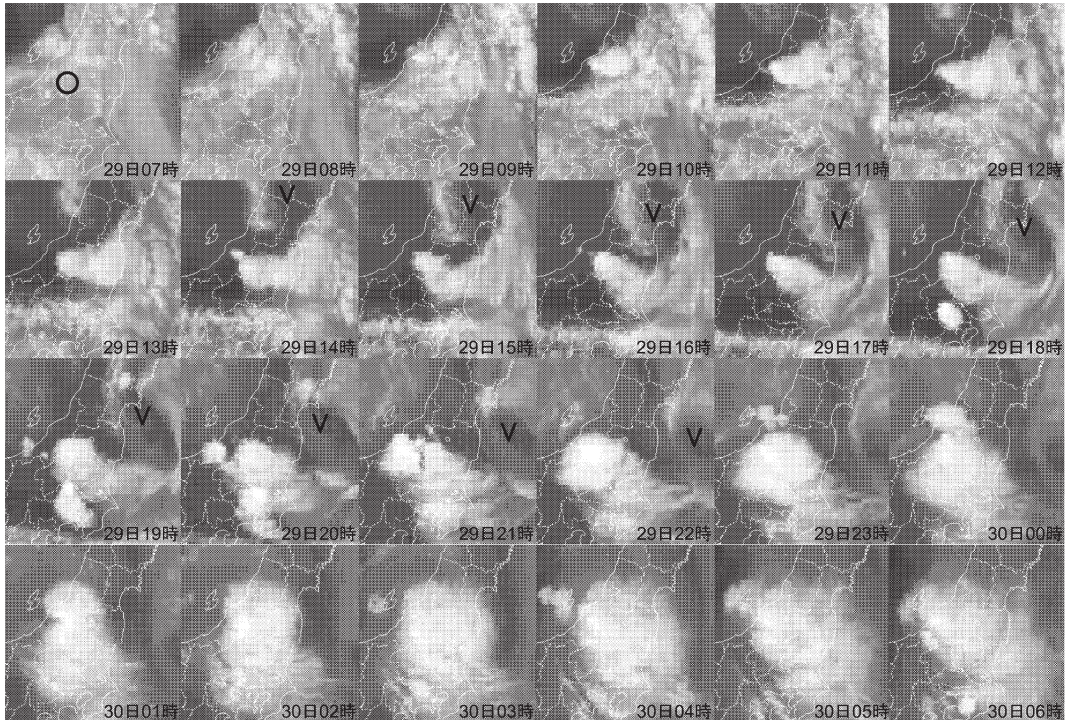
北海道と東北～関東の太平洋岸は北東風でひんやりした霧雨。太平洋高気圧の中心に近い沖繩～九州で晴れて気温上昇。福島県沖でマグニチュード6.4の余震発生。





## 今月のひまわり画像—2011年7月

### 平成23年7月新潟・福島豪雨

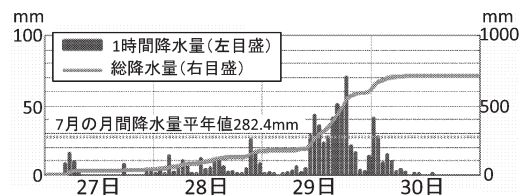


第1図 2011年7月29日07時～30日06時（日本時間）の1時間毎の水蒸気画像（記号については本文参照）。

2011年7月27～30日，新潟県と福島県会津を中心に大雨となり，死者・行方不明者6名が出たほか，各地で堤防の決壊や河川の氾濫による住家や農地の浸水が発生した。気象庁はこの記録的な大雨を「平成23年7月新潟・福島豪雨」と命名した。

第1図は29日07時～30日06時の1時間毎の水蒸気画像で，新潟・福島県付近では発達した積乱雲が次々に発生した。福島県にあるアメダス観測所の只見（第1図中の記号○の中心）では，29日19時までの3時間降水量が167.0 mmとなった。また，30日04時30分までの72時間降水量はこの地点の平常の7月の月降水量の2倍以上となる700.0 mmを観測した（第2図）。

新潟・福島県付近で発達した積乱雲が連続して発生した原因としては，日本の南にある高気圧の縁辺をまわる下層の暖湿気流の収束，寒冷渦（第1図中の記号V）の影響による上・中層への寒気の流入，上・中層における日本海からの乾燥空気（第1図中の暗域（上・中層の水蒸気の少ない領域に対応））の流入などが



第2図 アメダス観測所只見の降水量時系列図。

考えられる。なお，気象レーダー（図省略）では，積乱雲が風上側に繰り返し発生・発達するバックビルディング型の線状降水系が見られた。

#### 参考文献

気象研究所，2011：平成23年7月新潟・福島豪雨の発生要因について。 [http://www.jma.go.jp/jma/press/1108/04b/20110804\\_gouuyouin.pdf](http://www.jma.go.jp/jma/press/1108/04b/20110804_gouuyouin.pdf) (2011.8.15閲覧)。

（気象庁予報部予報課航空予報室 原 基）